

不 高 学 友 会 だ よ り

発行所
埼玉県立不動岡高等学校
校友会
加須市不動岡1-7-45
電話 0480 (61) 0140



不 易 と 流 行
会 長 立 岡 勝 之

日照不足で米の作柄が心配された天候不順の夏も終わりました。また、八月の末には第四十五回衆議院議員総選挙が行われ、議席数で与野党が逆転をする状況になりました。

このように、私達を取り巻く環境や社会情勢はめまぐるしく変化しています。その中で、これからの時代を生きていくための必要な資質として「不易と流行」という言葉が挙げられます。変化に対応し、新しい物を進んで取り入れる柔軟さと、本当に大切な物を見抜き、堅持する剛健さを持ち合わせる。まさに本校の校訓にある

「質実剛健」の精神と一致するところ。

本校周辺の変化を見回してみても、昨年度には騎西高校が、そして今年度には旧分校の北川辺高校と菖蒲高校が相次いでその役割を終えます。これも時代の流れとして必然のこととは言え、悲しさはぬぐい切れません。この気持ちをバネに、中心校としての不動岡高校がますます発展することが期待されます。

その最中、一昨年度からセメスター制、昨年度から進学重視型単位制高校へと、変化を続けてきました。今年はそのセメスター一学期生が卒業に当たる年です。県内で最古の歴史を有する本校が、最新の施設と教育システムで一層の飛躍を遂げようとしています。卒業生の組織である校友会としても、今後の不動岡高校の活躍を祈念するとともに、現役生の活動を支える団体として、これからも活動して参りたいと思います。



歴 史 と 伝 統 を 礎 に
校 長 館 眞 一

未曾有の経済不況、新型インフルエンザの流行、政権交代など今年

は大きな変化が続いています。先行き不透明な状況ではありますが、本校は、「質実剛健」、「文武両道」の不動岡精神のもと、「明日の世界を創造する品格あるリーダーの育成」を目指し、教職員一人丸となって日々の教育活動に邁進しています。

昨年度の大学合格状況は、国公立大合格者82名、難関私立大合格者67名など近年にない好結果でした。今年度は、この成果を踏まえ、隔週の土曜授業を実施し、確かな学力の定着を図るとともに、長期

休業中の補習の充実、きめ細かな進路相談等を通して、大学への合格力の向上に努めています。さらに、国際交流事業、高大連携、教養講座、文化講演会など様々な学習の場を提供し、高い志を育む取組を行っています。

今年度は、部活動の活躍もめざましいものがあります。高校総体では、陸上棒高跳びで川島君（2年）が優勝するという快挙を成し遂げました。サッカー部は関東大会県予選でベスト4となりました。全国総文祭には、吹奏楽部、箏曲部、新聞部、文芸部が参加し、高い評価を受けています。部活動には9割を超える不高中生が在籍し、研鑽に励んでいます。

また、今年度は、本校が所蔵している美術品や資料を整理し、不高中生が本校の歴史や先達の業績に触れられる環境づくりも進めています。不高中生が、百二十四年の歴史と伝統を礎に、知性を育み、心身を鍛え、高い志と誇りを持って、新たな世界へ飛躍できるよう指導を進めていく所存です。

校友会の皆様には、本校の教育方針にご理解をいただくとともに、物心両面でのご支援・ご協力をお願いして、挨拶とさせていただきます。

セメスター制 いよいよ最終ステージ突入

平成十九年度（二〇〇七年度）に導入した新しい教育システムであるセメスター制一学期生の生徒はいよいよ十月から最後のステージに入ることになります。

セメスター制につきましては、この「校友会だより」の紙面でご説明してきたとおり、半期ごとに科目単位を認定していくことにより、三年生前期までに、基礎基本科目、そして文理に分かれての応用科目のほとんどを修了し、三年生後期は、生徒が目指す大学に向けての実戦力を養う講座を設定するというシステムです。生徒たちは、英国数理社という入試に欠かせない科目以外に、音楽、書道、美術そして体育などの専門分野に進むための講座も受講して受験に備えています。セメスター制の大きな特徴であるこの第三ステージの効果はどのようになっているのかは来春ですが、少なくともここまでの成績を見る限り、この制度以前の生徒たちと比べてみると成績は下がってはいません。むしろ模試の結果は上がっていることがわかりました。それも、一学期より二学期、三学期（現一年生）の同時期の成績は上がっているの

す。セメスター制の効果は出てきていると考えていいと思います。

ところで「ヒドウン・カリキュラム」という言葉をご存知でしょうか？これは社会学・教育社会学の分野で使われる言葉で、潜在的カリキュラム（隠れたカリキュラム）をさす言葉です。フォーマルなカリキュラムの裏にはもう一つのメッセージが込められているということなんです。実は、セメスター制のカリキュラムには、隠されたカリキュラムが存在するんです。それは「選ぶ力」を育成するといふものです。入学後しばらくして文系・理系の選択をしなければなりません。それは自分の進みたい分野を選び、そのための大学・学部を選ぶこととなります。そして、その進路に合わせて勉強する科目を選ぶこととなります。セメスター制のカリキュラムでは、常にその選択を迫られることとなります。「選ぶ・選択する」という営為は、それを選ぶ「自分」と向き合うことが求められます。自分とはどんな人間なのか？自分を取り巻く社会はどんな社会なのか？それを考えさせることを通して「品格」を備えたリーダーに成長してほしいというネライが隠されていることをご理解ください。

【セメスター推進委員会委員長
長島 巖（第八二回卒）】

喜寿を祝う同窓会

本 多 一 基

第六十二回卒業生の喜寿を祝う同窓会が、昨年十月二十六日(母)校の百周年記念館で催された。私達は、太平洋戦争末期の昭和十九年四月に入学したので暗い思い出がたくさんある。

その一つが、短期間であったが学校工場で働いたことである。昭和二十年春に東京の軍需工場が学園内に疎開してきて、終戦までそこで働いた。毎朝、校門を入ると行くところは工場で寂しい思いをしたものである。

また多くの先輩達を戦場へ送った。私のお世話になったAさんも特別幹部候補生を志願して一年足らずで戦死された。朝の校庭での壮行会でAさん達三名を送ったことが今も脳裏に焼きついている。

また朝礼終了後に陸軍省からきていた配属将校が、三年生以上の生徒達に軍隊志願を勧めていたことも見ている。

こうした暗い毎日が、終戦日を境にして大きく変わった。

昭和二十一年になると母校近くの志多見原へ進駐軍が駐留するようになり、我々は学校帰りに時々そのキャンパスに立ち寄った。そこで兵士達と下手な英語で会話を交わしガムなどをもらった。

その後間もなく、午後になると兵士達が母校のグラウンドヘトラックでやってきて野球を楽しむようになった。

うになった。グラウンドに英語が飛び交い、私達は徐々に明るさを取り戻したのである。



同窓会には九十五歳になられた恩師の前田伴一先生をお招きして昔の仲間四十五名が集まった。私達は在学中に戦後の学制改革があったので、旧制中学四年修了組、旧制中学五年卒業組、それに新制高校卒業組の三グループがあり、総数は二三〇名である。このうち七十余名が鬼籍に入っている。今回は開会に先立ち小野田幸夫先生のご案内で新校舎を見学させてもらった。視聴覚室、階段教室、資料展示室、それに天体望遠鏡を備えた天文台まで新設され、充実した教育環境に目を見張った。十二時半から始まった懇親会は和気藹々のうちに進み、あちこちで和やかな談笑が見られた。最後に母校の益々の発展を祈りながら校歌を斉唱してお開きとなったのである。(第六十二回卒業生)

平成21年度 慶祝者名一覽 (敬称略)

89	山畑 昭司	加須・加須北中学校校長
89	松崎 和則	伊奈・小針中学校校長
89	加藤 修	川口・芝中央小学校校長
89	小野田正範	加須・加須南小学校校長
89	石川 勉	松伏・松伏第二中学校校長
88	中島 一郎	杉戸・西小学校校長
88	岩崎 淳	和光・第三中学校校長
87	内田 敬	大利根・大利根中学校校長
86	山本 耕司	鷲宮・東中学校校長
86	服部 勲	春日部・谷原中学校校長
85	中田 貞夫	狭山緑陽高等学校校長
85	長谷川 浩	さいたま市立浦和高等学校 兼浦和中学校校長
85	大塚喜美子	幸手・香日向小学校校長
83	黒巢 茂	川口・芝南小学校校長
83	岩崎 祐一	鷲宮高等学校校長
82	成田 守弘	越谷・武蔵野中学校校長
82	有賀 勝	さいたま・植水小学校校長
菖 4	福島 英二	春の叙勲 瑞宝単光章
86	松永 隆夫	埼玉文芸賞正賞 俳句&俳人協会新人賞
68	小磯 正	秋の叙勲 瑞宝双光章
68	松井 隆	秋の叙勲 瑞宝小授章
59	高瀬 一太郎	秋の叙勲 旭日小授章

二〇〇九年度の入試結果

今年度のセンター試験出願者数は、三五四名であり、約九八%の出願率であった。本校では、センター試験における各教科・科目の平均得点率が七〇%を超えることを目標にしているが、超えた教科科目は、数学Ⅰ・日本史A・倫理・化学Ⅰの四科目であった。全国的に五教科七科目の文系や六教科七科目の理系の総合平均点が下降したセンター試験において国立志望者は受験に必要な科目で七〇%以上の得点をめざし、また私立大学志望者は三科目で八〇%の得点率を得ることを達成してほしい。

平成二十年度の卒業生の進路状況は、四年制大学への進学者は二七一名、海上保安大学校等の準大学へ二名、専門学校へ六名、就職者一名、来春の受験準備者は七六名、進路未定の生徒は八名であった。国立大学への進学では、首都圏や関東圏を中心に六二名が合格した。また公立大学では、埼玉県立大をはじめ二十名が合格した。今年は昨年比べて国立大学への合格者が増加した。その原因の

一つは、センター試験の総合得点が下降するなかで、受験生の安全志向が高まり、首都圏の国立大学で志願者が減少したこと等があげられる。そのなかで本校生の多くがセンター試験の得点率を堅持し、目指す首都圏の難関国立大学や難関私立大学等に合格し、よく健闘した結果と思われる。私立大学には、延べ七八六名の生徒が合格し、二〇七名が進学した。この結果は、多くの生徒が首都圏の難関私立大学や知名度の高い大学を目指して受験したことが推察される。

現役生二七一名の学部別進学者数では、人文教養系五〇名、工学系三三名、法学政治社会学系三一名、経済系二八名、理学系二一名、外国語・国際学系二〇名、看護医療保健系一七名等があげられる。「予習して授業に臨み、授業をしっかり受けて、復習して定着を図る」という学習の基本を身につけて最後まであきらめず取り組むことが大切である。

文責 八〇回卒

進路指導部主任 藤田 竹一

現役合格率 84.5%

現役進学率 74.5%

過去3年間の合格者(延べ人数)

大 学 名	平成19年度	平成20年度	平成21年度
北海道大			1
弘前大		1	
岩手大			2
福島大			1
茨城大	2	1	3
筑波大	5	6	8
宇都宮大	1	8	9
群馬大	5	1	2
埼玉大	30	26	20
千葉大	5	1	6
お茶の水女子大	2		
電気通信大	1		
東京大		1	
東京外大		6	3
東京学芸大	5	1	4
東京農工大	1	2	
一橋大	1	1	1
横浜国立大	3		1
新潟大	2	3	
信州大		1	1
高崎経大	3	1	3
埼玉立大	7	8	10
首都大	5		1
横浜大	1		2
その他	5		4
合計	84	68	82

大 学 名	平成19年度	平成20年度	平成21年度
獨協大	47	46	35
文教大	38	34	38
青山学院大	15	11	8
学習院大	14	16	14
慶応大	2	4	5
国際基督教大	2	2	
芝浦工大	19	19	32
上智大	11	8	9
成城大	11	22	18
中央大	20	31	33
津田塾大	1	2	8
東京薬大	2	6	2
東京理大	20	29	30
東洋大	80	64	63
日本大	56	53	41
日本女子大	15	5	4
法政大	50	38	51
明治大	43	32	39
明治薬大	5	14	12
立教大	46	50	58
早稲田大	14	13	29
東邦大	4	1	7
日本獣医生命科学大			1
立命館大	3	3	
その他	275	287	249
合計	793	790	786

人事異動

転出・退職

職名	氏名	教科	転出先
田村 栄一	栄一	数学	退職
下山 忍	忍	地歴公民	さいたま市立和光高校
丑久保恵子	恵子		熊谷特別支援学校
小沼 重雄	重雄	国語	羽生高校
神原 浩	浩	国語	岩槻北陵高校
岸 礼子	礼子	国語	春日部高校
加村 淳	淳	地歴公民	鴻巣女子高校
岡安 邦彦	邦彦	数学	白岡高校
小杉友季子	友季子	数学	越谷南高校
佐藤 友孝	友孝	理科	大宮西高校
手嶋 孝子	孝子	保健体育	桶川高校
黒田 幸治	幸治	美術	春日部女子高校
小澤 照恵	照恵	音楽	妻沼高校
新井 昭広	昭広	書道	桶川西高校
江森 陽子	陽子	英語	誠和福祉高校
橋本 正洋	正洋	英語	上尾鷹の台高校
森田 憲子	憲子	英語	進修館高校
富田 克己	克己	国語	南校高校
久保島昌一	昌一	英語	駒西養護学校
倉持 和之	和之		企業誘致・経営支援課
藤間 慎	慎	国語	熊谷農業高校
田高 昌幸	昌幸	国語	草加西高校
松本 直樹	直樹	国語	浦和養護学校
千代 卓行	卓行	国語	大宮南高校
伊藤 誠男	誠男	地歴公民	岩槻北陵高校
齋藤 雅春	雅春	数学	北川辺高校
曾根 剛	剛	数学	栗橋高校
菊地 滋幸	滋幸	数学	浦和西高校
鈴木 成	成	理科	福岡高校
佐藤 裕和	裕和	理科	大宮東高校
柿沼 敦子	敦子	保健体育	庄和高校
関根 典夫	典夫	美術	進修館高校
長谷川順子	順子	書道	桶川西高校
半田 益主	益主	英語	鷲宮高校
野中由美子	由美子	英語	北川辺高校
海老沢やよい	やよい	英語	伊奈学園高校
諸井 俊夫	俊夫	英語	浦和北高校
中村千代子	千代子	英語	上尾南高校

現在の不動岡高校

土曜授業始まる

最近では、伝統校、進学校を中心に土曜日に授業を行う学校が増えてきていますが、本校でも、本年4月より、隔週土曜日に、全学年で実施することになりました。年間では14回予定で、すでに1学期に6回行われ、生徒達は真剣に取り組んでいます。本校の基本方針である「確かな学力と知性を育む」ために、また、「確かな合格力」をつけるために、学校として、できることを着実に実行していきたいと考えています。

オーストラリア海外研修

新型インフルエンザの流行で実施に関して、大変懸念されましたが、幸い、今年も例年通り、オーストラリア海外研修を無事実施することができました。

7月28日より8月10日まで14日間、クイーンズランド州にある姉妹校のキングガロイ高校を訪問し、現地の生徒と一緒に授業を受講したり、異文化の下での貴重な生活

体験をしました。特に、本年度は、新たなプログラムとして、クイーンズランド大学の学生と、プレゼンテーションやディスカッション、英語によるフリーカンパシーションも行われ、大変充実した研修になりました。

英語弁論大会 文部科学大臣奨励賞受賞

8月21日(金)青森県厚生年金センターで行われた全国国際教育研究会のスピーチコンテストで外国語科3年の岡本まりなさんが見事文部科学大臣奨励賞を受賞しました。



部活動報告



世界ユース陸上大会に出場

不動岡高校から世界に羽ばたく選手が誕生した。今年度の関東高校陸上競技大会の棒高跳で優勝した二年生の川島優君である。彼は地元加須西中出身で中学時代から本校で練習していた明るく向上心旺盛な選手である。関東大会の記録は元日本記録保持者の橋岡選手を二十五年ぶりに更新する5m06cmの素晴らしい大会新記録でした。この記録が日本陸上競技連盟に認められ「ユース日本代表選手」に選考されました。そして七月八日(十二日イタリア)プレッサノーネ開催)大会に出場することにな

悲願の全国制覇(陸上競技部)

今年度の全国高校陸上競技選手権大会(奈良県)において、棒高跳で川島優(二年)が見事全国優勝という快挙を達成しました。全国制覇は陸上部としては創部九十一年の歴史上三人目であり三十五年ぶりとなります。記録は5m00cmでした。表彰式の舞台上で不動岡高校陸上競技部の部旗が陸上競技場に轟く「高体連の歌」と共に優勝ポールに掲げられた光景は言葉には言い表せないくらい感動しました。全国の高校生スポーツ選手の憧れの舞台で栄誉を勝ち取った瞬間です。本人はもとより応援に駆けつけてくれた藤間先生をはじめとする関係者の皆様とともに笑顔でお互い自然に抱き合っ喜びを分かち合いました。これからは追われる立場になりますが、今後も高校生トップアスリートとしての自信

りました。世界から十七歳以下のトップアスリートが集結し(一三〇〇名)競い合う大きな大会です。日本選手団(二十九名)の一員としてユニフォームに日の丸をつけて競技する川島君の勇姿には感慨深いものがありました。結果は予選を通過し、決勝で5m00cmをクリアし、見事世界五位入賞を果たすことができました。世界の強豪たちと互角に勝負できたことは今後の競技生活に大いなる自信と誇りになったと確信しています。短期間の海外遠征でしたが「日本代表選手」としての様々な貴重な体験を、是非今後あらゆる機会でも部員や不高中生と共有し、日常生活

に生かしていつてもらいたいと思います。また、日本陸連スタッフや学校関係者には遠征期間中は大変お世話になりました。今後とも御理解と御協力の程重ねてお願いいたします。 顧問 小堀 泰代

と誇りを胸に、真摯に前向きに情熱をもって競技に取り組んで全国総体二連覇を成し遂げてもらいたいと思います。顧問として全面的にバックアップを図っていくつもりです。学友会の皆様には今後とも不動岡高校部活動全体の発展のため、御理解と御支援等賜りますようよろしくお願いいたします。

顧問 小堀 泰代
倉科 淳

第三十三回全国高等学校総合文化祭(吹奏楽部門)に参加して

吹奏楽部は、県内から一校選ばれます埼玉県代表校として、七月三十、三十一日の両日に渡って行われました「第三十三回全国高等学校総合文化祭(吹奏楽部門)」の発表・交流会に参加してまいりました。

会場となりました三重県津市にあります「三重県文化会館大ホール」は、客席数一九〇三席、三階席まである非常に大きく、荘厳な内装のホールで、生徒も一歩足の中に踏み入れるやいなや、感嘆の声を上げておりました。

三十日の交流会では、今回の発表会の講師でもありますクラリネ

ット奏者・佐川聖二先生の指揮により「吹奏楽のためのプレリユード」『時計台の鏡』の旋律による「(作曲：鈴木英史)」を、各参加校から選抜されたメンバーにより演奏をしました。本校からはトロンボーン三年・高井奏さんとクラリネット(バス・クラリネット担当)三年・高木葉さんが参加し、佐川先生のご指導の下、全国選抜メンバーの中で堂々とした演奏を披露してくれました。また、同じく佐川先生の指揮により全員合奏「星条旗よ永遠なれ」(作曲：P・スーザー)では、一部のパートを除く本校部員がみんな、会場内の他の高校の生徒と一緒に演奏をいたしました。一〇〇〇人を超えるであろう大人数での演奏というのは、あまり体験することのできないものですので、生徒にとっては貴重な思い出となったことと思います。

翌三十一日には、本校の二・三年生を中心とした編成での演奏を行いました。演奏しました曲は「交響三章」(作曲：芥川也寸志、編曲：小長谷宗一)と「コパカバナ」(作曲：B・マニロウ、編曲

・岩井直薄)の二曲。演奏の前には部長の三年・田村寧子さんが、

箏曲部 「全国高総文祭みえ」報告

三重県の生徒実行委員の生徒による司会と一緒に、埼玉県についてや加須市について、また本校について紹介し、埼玉県の代表として、さまざまな都府県から来場している会場の方へ、埼玉県をPRいたしました。演奏では、大きな舞台であることから緊張する面持ちの生徒が多かったものの、演奏が進む中で少しずつ表情も柔らかくなり、明るく伸びやかな「不動岡サウンド」を存分に会場に響かせ、「全国」の舞台を楽しむことができたように思います。

今回の「第三十三回全国高等学校総合文化祭(吹奏楽部門)」出場は、生徒にとっては「全国」という大舞台で演奏すること、また他県から出場した高校の演奏を聴くことなどにより、非常に刺激的で、意義深いものであったと感じております。この経験を基として、今後より美しく、すばらしい音楽作りを目指し、またその他の諸活動においても高い志を持って活動してまいりたいと思います。

顧問 塩原 壮
小野田 幸夫
松本 直樹
海老沢やよい

七月三十日から八月二日まで、三重県鈴鹿市で開催された全国高総文祭みえ大会に、三年生十一名二年生七名の計十八名で参加した。演奏した曲は水川寿也作曲「大河の響き」。雄大な川の流れを感じられるドラマティックな曲で、生徒はこの一年間練習が進むほどにこの曲が大好きになっていった。今年の大会はレベルがとても高く、昨年見学した群馬大会と比べても、各県の参加校が入賞校の演奏にどんどん近づいている。

そんな雰囲気は圧倒されながらも、リハーサルと本番の二回の演奏がこのメンバーで奏でる最後となるので、みんなで呼吸を合わせ、集中し、リズムを揃えてゆく。会場の鈴鹿市民会館は部屋数が少なく、隣の市役所の十二階で調弦した。重い琴を持つての長距離移動、環境は良きは無かった。また天候も不安定で、屋外を通過して移動にはとても気を使った。

しかし、一日中ブルーシートを高く掲げて、通路を雨から守ってくれた運営係の生徒の姿に、昨年の埼玉インターハイで裏方を経験

した本校の生徒は、「ありがとございます」と明るく元気に感謝を伝え、心をひとつにステージに向い、思いをこめて演奏した。演奏が終わり舞台から捌けて来る生徒の表情には、入賞は果せなかつたが、ここまでやり切った満足感があふれていた。一人ひとりの心に深く刻まれた大会となり、ここに参加できたことを感謝したい。

顧問 久保美恵子

新聞部 優秀賞(全国二位の評価)受賞

今年も新聞部の活動が全国で高い評価を受けました。まず、第三八回全国高校新聞コンクール(大東文化大学主催、文部科学省朝日新聞後援)で文部科学大臣奨励賞に次ぐ二番目の「朝日新聞社賞」を受賞しました。表彰式は三月六日に築地の朝日新聞東京本社で行なわれました。また、第五三回埼玉県学校新聞コンクールにおいては、昨年引き続き「最優秀賞」(県知事賞)を受賞することができました。

そして第十三回全国高校新聞年間紙面審査で入賞し、七月二十九日から三重県の津市で行なわれた全国高等学校総合文化祭に六年連続し

て参加し、最終審査ではこれも二番目の評価に当たる「優秀賞」を受賞、合わせて「新聞と教育研究所」が主催する「スクールジャーナル賞」をいただくことができました。

今回、高く評価された企画は、裁判員制度を想定した模擬裁判を新聞部が主催して行ないそれを記事にしたものです。これは朝日・読売両新聞が大きく取り上げてくれました。活動が「自信」を育み、その「自信」が一段高い次なる活動を生み出す。部員たちは活動を通して確実に成長しています。今年も新聞部は元気です。

顧問 長島 巖

文芸部 全国高文祭に参加

第三十三回全国高等学校総合文化祭(三重大会) 文芸部門に、文芸部三年本間早紀さんが参加した。本間さんは昨年、埼玉県高校生文芸コンクール散文部門で最優秀賞を受賞。県の代表となった。受賞作は「雨のち雨」だった。

三重大会は七月三十一日から三日間、伊勢市生涯学習センター(いせトピア)を主会場に行われた。初日は部門別に文学散歩をした。散文部門は、三島由紀夫の「潮騒」の

舞台となった、神話の宝庫である神島を訪れた。神島は鳥羽市佐田浜港より船で四十五分の場所にある。残念なことに私たちは船酔いしてしまい、島内散策は限られたものになってしまった。しかし、共同洗濯

場跡や、井戸跡等を見、島の展望台に立つ中、少しではあるが小説の中の思いに浸ることができた。二日目は部門別交流会と合評会であった。合評会は、グループ別、全体の順に行われた。これはお互いの作品を批評し合うもので、いわば文芸部のメインとなる活動である。本間さんは「mind sketch」という作品を出品

丁寧で美しい描写の中にテーマを埋めこむ手法に、講師の先生からおほめの言葉をいただいた。合評会は真剣そのもので、生徒たちの作品への思いを感じることができた。三日目は報告会と記念講演会が行われた。講演会は「『身体』から『文体』への旅」という題で行われ、みな熱心に聞き入っていた。

三日間あいにくの天気だったが、いせトピアは熱気にあふれていた。日常の何気ない出来事を自らの感性で切り取り文章に仕立てていく。若い高校生たちのそうした姿に頼もしさを感じた三日間だった。

顧問 小秋元美弥子

同窓会

2009年同窓会実施報告

- 3/8(日) 80回新聞部OB会 8名出席
- 3/14(土) 120回3年5組同窓会 19名出席
- 3/15(日) 78回同窓会 約100名出席
- 3/21(土) 音楽部OB会 29名出席
- 3/28(土) 69回女子同窓会 55名出席
- 5/3(日) 79回女子クラス同窓会 19名出席

2009年同窓会予定

- 11/14(土) 114回同窓会
- 11/29(日) 74回3年1組同窓会

支部総会開催報告

- 3/14(土) 大利根支部総会 おおたににて
- 3/15(日) 鷲宮支部総会 魚光にて

学友の集いに

ご参加ください

恒例の学友の集いを左記のとおり開催いたします。新しく生まれ変わった母校を、ご自身の目でご覧頂きつつ、旧交を暖めて頂ければ幸いです。お誘い合わせのうえぜひご参加ください。

平成二十一年十一月八日(日) 午前10時より

会場

埼玉県立不動岡高等学校

不動岡ホール

総会議事

- ①平成20年度会務報告
- ②平成20年度会計報告
- ③慶祝者表彰
- ④その他

懇親会

不動岡百周年記念会館にて

懇親会費

三、〇〇〇円

(当日受付でいただきます)

お問合わせは

☎〇四八〇一六一一〇一四〇

まで

編集後記

無事に学友会だより52号が発行される運びとなりました。原稿依頼を快く引き受けて頂いた皆様に、心より感謝申し上げます。昨今の不動岡高校生の活躍や、卒業生の皆様の近況をお知らせする重要な機会でもございます。更なる紙面の充実を図るべく、事務局一同、今後も努力して参ります。特に記事の寄稿をお待ちしております。引き続き皆様のご支援、ご協力を賜りたいと存じます。よろしくお祈りします。

